

令和2年度 山形美術館事業計画書

令和2年4月1日

-企画展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
出逢い —相田みつを展	<p>「自分はこの筆一本で生きていく」という決意のもと、人生を自身の書の追求に捧げた相田みつを(1924-1991)。晩年の代表作《にんげんだもの》をはじめ、平易でありながらも力強い言葉を独特の書体で書いた相田みつをの作品は、時に励ましを、時に人生への深い洞察をもたらし、今もなお、世代を超えて多くの人々に親しまれている。</p> <p>本展では、相田みつを美術館の所蔵品から、初公開作品や愛用品を含む約180点を紹介する。《にんげんだもの》(1980年)、《道》(1980年代後半)、《いのちいっぱい》(1991年)をはじめとする代表的な書、屏風を含むろうけつ染の作品、菓子の包装紙などのデザインワークのほか、中学生時代に描いた絵画や、相田みつを本人が愛用した筆、硯などにより、初期から晩年に至るまでの、相田みつをの活動の軌跡をたどる。</p>	4月3日(金) — 5月10日(日)	一般・大学生 1,200円 小中高生 600円 ※土曜と5月5日は 中学生以下無料
		7月17日(金) — 8月23日(日)	
ますむら ひろし展	<p>山形県米沢市出身の漫画家・ますむらひろし(1952-)の業績を紹介する山形市初の展覧会となる。21歳でのデビューから、雑誌『ガロ』を経て『マンガ少年』などで作品を発表。とくに宮沢賢治の物語を猫の姿に変えて漫画化したシリーズで知られ、なかでもますむらの作品を原案とした1985年の劇場版アニメ『銀河鉄道の夜』は100万人を動員するヒットとなった。近年は架空の世界を描いたアタゴールシリーズに加え、『銀河鉄道の夜』を新たな解釈で紹介する漫画に取り組んでいる。本展では代表作『アタゴール物語』から、最新作に至るまでの豊富な原画や資料を展示。幅広い世代に愛される、ますむらひろしの世界を紹介する。</p>	7月17日(金) — 8月23日(日)	一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料
最上三十三観 音子歳御開帳記 念霊地やまがた —こころの源泉 をたどる—	<p>山形県には、立石寺、慈恩寺といった東北を代表する名刹、「置賜」「最上」「庄内」三地域それぞれに設置された三十三観音霊場、出羽三山や蔵王をはじめとする山岳信仰の拠点となった霊峰など、仏教にゆかりの深い文化的な遺産が豊富に存在する。これらは、現在に至るまで「霊地」として信仰されるとともに、山形で生きる人々の精神性を育む上でも、大きな影響を及ぼしてきた。</p> <p>2020年は「最上三十三観音」の子歳御開帳が行われる。これを記念し、最上三十三観音札所から借用した御寺宝、写真家・山本やす子氏による写真、新庄市出身の洋画家近岡善次郎による「最上三十三観音」連作スケッチなどを展示し、「最上三十三観音」の魅力を紹介する。</p>	12月10日(木) — 令和3年1月31日(日)	一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料 「山形 美の鉱脈」と 統一料金

-企画展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
山形 美の脈 明治から令和へ	山形美術館は1964年の開館以来、「山形の美術」を中心とした展覧会活動と作品収集を行ってきた。その多くは、山形の風景や風土に魅了された作家が、鋭敏な感覚と繊細な心で生み出した多彩な作品である。また震災後、地域に向き合いながら、「非-日常」を創造する芸術のあり方を模索する作家や集団が山形にも見られるようになってきている。 本展は、明治期からの山形ゆかりの作品と、現代作家の作品を並置することにより、時代を超えて通底する特徴を浮かび上がらせようとするものである。山形の美術史の中に、アートの未来の脈を掘り起こす試みである。	12月10日(木) - 令和3年1月31日(日)	
		一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料 「最上三十三観音御開帳記念展」と統一料金	

-3県展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第75回 山形県総合美術展	山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招き、入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示公開する予定。併せて第62回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。	8月29日(土) - 9月13日(日)	
		一般 700円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第45回 山形県総合書道展	山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し、中央でも活躍している県書壇の重鎮による合同審査を行う。例年一般公募と会友・役員含め700点近くの応募があり、その中から厳選して優秀作および入選作を決定する。上位入賞者の中には本展を足がかりに中央展で活躍する者もあり、県書道界の現時点の力量と将来への展望を示す展覧会となっている。	9月18日(金) - 9月27日(日)	
		一般 700円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第55回 山形県写真展	山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家に審査を依頼して入選を決めたうえ、その中から入賞、準入賞、努力賞を選んで表彰する。近年、公民館や生涯教育のなかで写真教室が人気を集めるなど、カメラを手にする人が増えており、本年も2,000点を超す応募作品が予想される。	令和3年2月25日(木) - 3月21日(日)	
		一般 700円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	

-収蔵品によるテーマ展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
フランス近代絵画の精華-印象派から戦後まで吉野石膏コレクション+服部コレクション	当館収蔵品のなかで、吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている絵画コレクションは、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまで、多様な作品が揃っている。また、1985年の本館新設に際して収集された服部コレクションは、現代フランス絵画の巨匠たちによる高品質の作品群として県内外に知られている。本展では、二つのフランス絵画コレクションを通じて、19世紀から20世紀後半までのフランス絵画の多彩な展開を紹介する。	6月4日(木) - 6月21日(日)	一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料
やま・かわ・やまがた	山形に暮らす人々が日々眺め仰ぎみる吾妻山、飯豊山地、朝日岳、蔵王山、月山、鳥海山などの山々。そして吾妻山付近に源を発し酒田で日本海に注ぐ、山形の母なる川-最上川。本展では、これらの厳しくも優しさを帯びる山形の風景や風土に魅了された作家らの作品を通して、多彩な山形の風景の素晴らしさを伝える。	10月9日(金) - 10月25日(日)	一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料
描く女性たち	男性中心の美術界で、自身の表現の追求に生涯を捧げた女性作家たちの存在を決して無視することはできない。本展では、山形市出身の洋画家・桜井浜江(1907-2007)を中心に、米沢市出身の日本画家・吉池青園(1896-1924)、県美展や東北現代美術展(北展)で活躍した岩田ちよ(1917-1999)など、山形ゆかりの女性作家の作品を紹介する。	11月11日(水) - 11月23日(月・祝)	一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料

-収蔵品展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収蔵品展	常設展 「巨匠の広場」 / 「吉野石膏コレクション-珠玉のフランス 近代絵画」 / 「新海竹太郎・竹蔵彫刻展示室」 / 「長谷川コレクション記念展示室」 / 「彫刻の小部屋」	年間通し	
		一般 600円 高大生 300円 小中生 100円 ※収蔵品展によっては 料金の変更あり ※土曜は中学生以下無料	